

## 日本植物学会高知大会・公開講演会にあたって

このたびの日本植物学会第72回大会（高知2008）において、公開講演会「黒潮に育まれた高知の自然と生物」の開催にあたり、県内外でご活躍の9名の講演者の方々とご協力いただきました高知市教育委員会に深く感謝いたします。

四国西南にあつて足摺岬と室戸岬を両翼端に置き、正面にその沖を黒潮が流れる太平洋を臨み、背後を重層する急峻の四国山脈で塞がれた高知の県土。かつて国の辺境として土佐が流刑地の一つであったということは、今なお、この地勢の特徴を言い表すのに有効です。海と山に挟まれ、灼熱の夏があり、台風が常襲する自然は、この地で、いごっそう、はちきんと呼ばれる土佐人氣質が培われてきたことと無縁ではありません。それはまた、近世へ日本を牽引した坂本龍馬の独創性と豪快さを生み出す素地ともなったのでしょう。立志社の植木枝盛の文章の一節に由来する「自由は土佐の山間より出づ」は、高知県詞となっています。さらに、日本の植物学の父と称される牧野富太郎博士は高知県佐川の出身であり、植物学会の学会誌「植物学雑誌」(現 Journal of Plant Research)を創刊したお一人でした。爾来120余年を経て高知で初めての植物学会全国大会が開催されることとなりました。

急速な工業化と近代産業の移入を拒み続けてきた県土は、一方で、全国1位の森林率84%を誇り、ダムのない四万十川をはじめ、クジラだまりの土佐湾など、人の手があまり入っていない山、川、海の自然を残してきました。世界有数の大規模海流黒潮がもたらす影響が加わり、高知には豊かな自然と多様な生物が育まれています。本公開講演会では、高知のさまざまな生物の特徴を知り、また、人との関わり合いを通してこれらの生物が高知の自然にいる意味を認識します。私たち人類にとってのこれからの人間活動と生活のありかたについて、講演者の方々だけでなく、県民の皆様、植物学会員、学生諸君にも考えを巡らせていただける有意義な時間となることを希望いたします。

日本植物学会第72回大会（高知2008）

大会会長 奥田一雄